

No.341

理研会報

9月25日（金）に、平成21年度印旛郡市理科作品展の審査会が、印旛教育会館で行われました。本号では、26日（土）の一般公開の様子と、審査に携わった先生方からの講評について掲載いたします。

郡理科作品展の様子

9月26日（土）の一般公開日には、運動会を実施している学校もありましたが、500名近くの来館者がありました。おじいさんやおばあさんなど三代での家族連れも多く、300点を超える優秀な作品を前に、「すごいなあ」という感想も多く聞かれました。作品の前で記念撮影をするほのぼのとした光景も数多く見られました。なお、郡の審査会で金賞に輝いた児童・生徒の作品は、印旛地区理科研究部のホームページでも掲載しておりますので、是非、ご覧ください。



郡理科作品展審査の様子

審査の講評：科学工夫作品の部

9月25日（金）は、郡理科作品の審査会を開催しました。運動会等の行事で忙しい時期ではありましたが、多くの先生方が時間をかけて慎重に議論し、審査してくださいました。

<小学校科学工夫作品の部>

沼田 正信 先生（佐倉市立佐倉東小学校）

今年度の作品展では、ゴムの弾性や磁石の性質等、学校での既習学習を発展させた作品や身近な素材を用いた作品が、多くありました。学校での理科学習の深化・発展という観点から、とてもよいことだと思います。動くおもちゃは、新しい発想の作品もありましたが、今までの作品の原理をを更に改良した作品が多くありました。また、図工的にも優れおもしろい作品もありましたが、あまり華美になりすぎないようにしたいものです。いずれにせよこれからも、発想の豊かさを表現する作品が、多く出品されることを願っています。

他にも、実験や観察器具の開発作品（星座の観察、電気の実験等）も出品され審査員の興味をひきました

バラエティーにとんだ作品で、今年度も審査員一同、楽しく審査させていただきました。来年度も、たくさんの科学工夫工作が出品されることを期待しています。

<中学校工夫作品の部>

片瀬 実 先生（成田市立久住中学校）

今年初めて中学校工夫作品の審査委員長を務めました。委員の先生方と一緒に9点の金賞（郡金賞1を含む）を選びました。作品を選ぶ時に考えたのが「発想のおもしろさ」でした。

- ・ふだんの生活体験の中から、「こんなものが欲しいな。」というものを作品にしている。
- ・もう製品になっているけど、「こんな使い

審査の講評：科学論文の部

方はできないかな。」という切り替えを作品に盛り込んでいる。

- ・去年の作品に、「こんな工夫を加えてみたよ。」と改良している。

このような作品が賞に選ばれました。

来年も、ちょっとした発想の転換から生まれた楽しい科学工夫作品を期待しています。

委員の先生方、ご協力ありがとうございました。

<小学校科学論文の部>

静間 慎一 先生 (成田市立平成小学校)

日常生活の中の疑問を追求したり、発想を工夫したりして根気強く取り組んだ作品が多く見られました。また、審査の結果、金賞に選ばれた作品は高学年では仮説や予想をしっかりと立て、計画的に実験に取り組んでいました。低・中学年では自分がしらべたいことについてわかりやすくまとめられていました。

「ダンゴムシ」の研究が低・中・高学年いずれにもあったのは、絵本や教科書の影響かと思われます。今後も自然や生活、科学とのかかわりを大切にされた作品が出品されることを願っています。

<中学校科学論文の部>

松田 治久 先生 (白井市立桜台中学校)

中学生科学論文の部には、各部会から選ばれた43点の力作が寄せられました。

飛来する白鳥を毎年観察し、生態と環境に関連づけて飛来数の減少の理由を考察したり、スズメの死骸が自然の中でなくなってしまうことを不思議に思い、その疑問を解決するために、鰯の死骸を様々なところに放置し、他の小動物によって分解されることを確かめるなど、身近な自然や現象をテーマにしたものが多くありま

審査の講評: 標本の部

した。

自由研究をするときに大切なのはテーマ選びです。身の回りの自然や現象に目を向け、何気ないことに疑問を持ち、それを解くことにより新しい発見や次の大きな疑問につながるものです。

<小学校標本の部>

渡貫 健 先生 (白井市立清水口小学校)

各部会での審査を経た48もの力作を審査させていただきました。全般に「親子で楽しみながら、がんばってやったんだな。」ということが感じられる作品が多数あり、ほほえましく感じました。中には審査員がどうしても一言メッセージをおくらずにはいられなかった努力作品もありました。

入賞作品はやはり「ラベルに日時・場所・採取者等をきちんと記載する。(全般)」「展翅などの処理をしっかりと。(昆虫標本)」「ゼロハンテープでなく紙テープを使う。押しがしっかりしている。(植物標本)」といった基本的なことがしっかりしており、同じような対象でもさらにワンランク上の作品となっていました。

また、「クモの巣」「各地の砂」「鳥の羽」を採取した作品もあり、標本としての対象の幅の広がりを感じました。

<中学校標本の部>

小野 哲 先生 (四街道市立四街道北中学校)

中学校の標本部門は、出品数は14点と少なかったものの、精選された作品ばかりでした。植物標本が多かったのですが、中には鶏などの骨を扱ったものやキノコなどの新たな挑戦をしたものもありました。昆虫が1点と寂しい気はしますが、昔のような小さい頃から虫取りに興じる環境が減少していることを考えると仕方がないかも知れません。手間のかかる標本作りに取り組む意欲を持つ、自然大好きな子どもを増やしたいと願います。

印旛地区理科研究部ホームページアドレス
<http://rikainba.or.tv>